

日大土木会会報

発行：日大土木会広報部会

〒101-8308

東京都千代田区神田駿河台1-8

日本大学理工学部土木工学科内

TEL：03-3259-0662

FAX：03-3293-3319

http://www.nu-dobokukai.com

企画部会（梶山修・部会長）では、本会の事業でもある学生支援活動の一環として、去る平成二十七年一月十九日（月）、理工学部駿河台キャンパスCSTホールにおいて、特別講演会を開催いたしました。

講演者は、本学理工学部土木工学科を昭和五十四年に卒業され、現在、東京都都市整備局で技監をされている佐野克彦氏でありました。講演タイトルは「二〇二〇年オリンピック・パラリンピックを見据えたまちづくり」で、現在東京都都市整備局が取り組まれている事業を紹介していただきました。



特別講演会 開催報告（企画部会）

「オリンピック・パラリンピックを見据えたまちづくり」

二〇二〇年というと、まだ先のようにですが、もうすぐやってくる東京オリンピック・パラリンピックに向けて、「東京」という都市をどのように作り上げていくか、誰しもが興味をもっている講演内容でありました。講演の中で、佐野氏は、東京都は二〇二〇年のオリンピック・パラリンピック大会をゴールではなく、将来への通過点に捉え、道路・鉄道・空港・港湾等のインフラを整備するとともに、それぞれを利用者が便利であるように実現していくことの必要性を力説され、さらには、インフラ整備の量だけではなく、バリアフリーや美しさ・安全性も兼ね備えた質の向上を目指して、「世界一の都市・東京」を作っていくという計画をお話していただきました。

「二〇二〇年という大会を開催するにあたり、本大会を「東日本大震災の震災復興の目標としての大会開催」にも位置づけられ、「世界各国からいただいた様々な支援に対する返礼の場」「二〇二〇年まで震災復興がされていることを世界各国に情報発信する場」でもあるというコンセプトを持たせることも重要で、オリンピック・パラリンピック大会を通して震災被災地の多くの人々にさらなる元氣や勇気を与え、そして将来への夢や希望を与える事業として展開していくという壮大な構想を示していただきました。



特別講演会の様子

（5）東京の総合的な交通のあり方

コンセプト

- ◆交通手段別から利用者視点への転換
- ◆量の充足に加え質の向上

目指すべき将来像

- ◆「世界一の都市・東京」にふさわしい「世界一の交通体系」

～概ね20年後の交通インフラを想定し、様々な人がそれを使いこなして移動する～

結びに

1964年大会 → 「つくるオリンピック」であり、その後の高度経済成長を支えた東京からの復興を、世界にアピール

2020年大会 → 成熟都市として都市問題を解決し、新たな都市モデルを世界に発信し、東京からの復興を世界へアピール

オリンピックは国威の誇り
オリンピックに対して、造幣局は「金の鳥」となるおそれ

オリンピックに向けやるべきこと十分に考える
開催準備期間を考えると、多くの事業を行うことは困難（財政、労力等）
事業の優先化が必要

ソフト対策を中心とした都市の改善を促せる ⇒ 旅行者、観光客にやさしいまちづくり
震災復興を、より一層加速させる ⇒ 世界から受けた支援に対する返礼

国際都市東京の創造

1980年代、東京はニューヨーク、ロンドンと並ぶ世界の国際都市。また、日本はアジア経済の中心でもあった。

この20年間で、世界経済は大きく転換。アジアでは中国、インド、中東・南米諸国の台頭が著しく、日本の経済力、東京の優位性は低下した。

世界の大都市は、国の命運を掛け、都市間競争を行っている。特に、アジアにおける中核都市の地位を争って、激しい競争が展開

日本の繁栄のためには、アジアを代表する東京の創造が不可欠

④オリンピック・パラリンピック開催を通じた被災地復興について

復興庁特別委員報告書（H24.12）より
オリパラ開催と被災地復興の関係

- ◆オリパラ招致の目的
「震災復興の目標として大会を開催」
「世界から受けた支援に対する返礼の場」
- ◆「復興の後押し」
「世界へのアピール」等の観点から、関連する事業を展開

本日の講演内容

- 1 東京が目指すべき都市像
- 2 東京のインフラ整備
- 3 東京の市街地整備
- 4 2020年オリンピック・パラリンピック大会について

①基本認識

東京の目指す都市像を「東京長期ビジョン」（H26.12策定）から見ると・・・

- ◆2020年はゴールではなく、ひとつの通過点
オリパラ開催を跳躍台にして、「世界一の都市・東京の実現」を図る。
- ◆「世界一の都市」とは？
都市基盤の整備や経済の活性化などを通じて、様々な分野や指標でロンドンやニューヨーク、パリにも勝る最高水準を目指す。
- ◆2020年から人口減少局面
少子高齢化社会、首都圏下地域の貧困など、山積する課題に対して、10年度さらにその先を見据えて解決に取り組む。

2020年 東京オリンピック・パラリンピックを見据えたまちづくり

平成27年1月19日
東京都都市整備局技監 佐野 克彦

（1）被害想定 首都圏下地震被害想定（東京海北部地震）

木造全壊建物棟数の分布（揺れ）
震災棟数分布（冬18時 風速8m/s）



学生からの質問も活発にできました (特別講演会)

聴講にきていた約八十名の学生たち(土木工学科、交通システム工学科、建築学科等)は、皆熱心に佐野氏の講演に耳を傾け、積極的に質問をするなど熱気あふれる講演会となりました。

人に役立つ「ものづくり」の可能性、そして「ものづくり」の意味をあらためて感じることが出来たのではないのでしょうか。出席した学生からも「来年都庁に入庁して、オリンピックに関する仕事がしたい」や「佐野先輩のように大きな仕事ができるように活躍したい」などの声も聞かれました。

土木系各学科・主任挨拶

土木系三学部四学科の主任教授の先生方より各学科の近況報告およびご挨拶をいただきます。

理工学部土木工学科

岸井 隆幸 先生

理工学部交通システム工学科

佐田 達典 先生

工学部土木工学科

古河 幸雄 先生

生産工学部土木工学科

伊藤 義也 先生

理工学部土木工学科

主任 岸井隆幸



昨年十月より、理工学部土木工学科並びに土木工学専攻の教室主任を務めております岸井でございます。日頃より、土木教室の教育・研究活動ならびに学生の就職指導等に多



理工学部土木工学科のホームページ

大なるご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。おかげをもちまして、近年、入学を希望する学生の数も増え、結果として入学時偏差値も上昇致しました。また、就職率(就職希望者に対する比率)は一〇〇%と極めて順調に進んでおります。なお、昨年度末に理工学部で初めて行われた卒業時学生満足度調査でも土木工学科に対しては非常に高い満足度が示されました。特に、学科の歴史や伝統そしてその就職力については群を抜いた評価で、これも卒

業者の皆様のご活躍とご協力によるものであると、教職員一同深く感謝をしております。今後ともこうした状況に満足することなく、教育・研究・社会貢献、様々な分野でより一層の努力を重ねてゆきたいと考えております。なお、この三月に駿河台九号館の研究室が御茶ノ水校舎(旧主婦の友社、新日大病院の横)に仮移転を致しました。三年後には旧九号館の場所に新しい校舎が完成し、土木工学科すべての研究室が集約されることとなります。ご期待をいただきたく存じます。日大土木会の皆様には、引き続き多方面にわたるご支援・ご協力をいただきますようお願い

願ひ申し上げますとともに、今後のますますのご活躍とご発展を祈念申し上げます。

理工学部

交通システム工学科

主任 佐田達典



交通システム工学科の教室主任を務めております佐田でございます。昨年十月に教室主任を再度拝命し来年九月末までの任期となります。本学科は一昨年四月に社会交通工学科から交通システム

工学科へ名称を変更し、本年は三年目を迎えました。本学科は一九六一年に交通工学科としてスタートし、これまでわが国で唯一の交通施設の計画、建設、そして管理・運営を行える技術者の育成を行う土木工学系の学科として教育・研究を進めてまいりました。しかしながら、近年の情報・コミュニケーション技術の進展は目覚ましく、交通に対しては、情報技術を活用し移動者と交通機関・交通施設が有機的に結合した交通システムの再構築と、それによるより安全で持続的な交通社会の創出が求められております。学科としてもこのような状況に対応した教育と研究を展開していくことをより明確



理工学部交通システム工学科のホームページ

(3) 第18号

にするため、学科名称を交通システム工学科に変更し、①高度情報技術を活用した高度交通システム(ITS)などに代表される高度な交通システムに対する理解と応用力の養成、②交通インフラの整備から管理の時代に直面する中で、環境・安全・福祉など多

面的側面から捉え直していく創造力の養成、③個々の交通施設や交通機関が連携・統合した一つのシステムを構築していくマネジメント力の養成を目標として教育・研究活動を進めております。

学科名称は変更いたしました。土木工学に軸足を置く学科であることに変わりはありません。交通システム工学科にとりまして、教育、研究、就職活動などのあらゆる

面におきまして、理工学部土木工学科殿をはじめとする土木会各学科との連携は不可欠です。これからの連絡を密にして進めさせていただきますと存じます。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

【学科の話】

学科で最も特色のある科目として「交通現象解析I」があります。三年生と教員全員が参加して三泊四日の合宿で

交通現象・交通量調査を行い、収集したデータの解析を行います。合宿調査は平成十九年度から七年間、静岡県富士宮市で実施してきましたが、

二六年度は新たに静岡県伊東市で九月に実施し、その様子が地元新聞でも紹介されました。

学部生、大学院生の就職状況につきましては、諸先輩方のご支援によりここ数年好調を維持しております。平成二十六年の内訳は、公務員三十八名、建設業三十名、運輸二十三名、コンサルタント

十三名などとなっております。また、平成二十七年新入生として学部生百三十二名、大学院生十六名を新たに迎えられることができました。

教室人事として、平成二六年度で岩井茂雄教授、中山晴幸専任講師が定年退職されました。岩井教授は四月から特任教授として引き続き教育・研究に当たられます。平成二十七年よりマラーイタム

サテーター助手、吉岡慶祐助手が採用されました。また、石坂哲宏助教と伊東英幸助教が准教授に、池田隆博助手、山中光一助手が助教にそれぞれ昇格されました。教員の近

況としては、川崎智也助教が日本物流学会賞を受賞されました。

【その他】

卒業生のネットワークは、大学にとって大変重要な財産です。交通システム工学科では、各学年の同窓会、各研究室でのOB・OG会などの開催を支援させていただいております。大学での開催を検討されている卒業生の皆さんは何時でも遠慮なく学科の方へご相談ください。お待ちしております。

工学部土木工学科

主任 古河幸雄



日大土木会には様々なご援助をいただき、心から感謝申し上げます。震災以来四年が経過して放射能の除染が完了するとともに、入学試験の志願者・入学者数とも震災以前を大きく上回り、土木工学科の教員一同心をなで下ろし



工学部土木工学科のホームページ

ております。この春入学した学生に対して四年間の教育を経て社会に貢献できる技術者として送り出しますので、今後ともご指導をよろしくお願ひ申し上げます。

平成二十七年三月で長林久夫教授、五郎丸博英教授、藤田豊教授が定年退職を迎えたのに伴い、この四月に金山進教授、朝岡良浩准教授、笠野英行助教の三名の先生をお迎えしました。先生方の前任と

専門分野は、金山進教授は五洋建設で沿岸環境分野、朝岡良浩准教授は東北大学で水文・水資源分野、笠野英行助教は早稲田大学で橋梁工学であり、授業はそれらに関連する科目を中心に担当していた

だいております。また、中野和典先生(環境生態学)が教授に昇格されました。

平成二十六年度の就職状況は非常に良好で、就職率一〇〇%を三年連続で達成し

工学部で最も高い内定率を得ることができました。工学部卒業の新人が先輩方の職場に配属されることもあるかと思えますので、その節はご指導賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

工学部では、毎年北桜祭の開催時(本年は十月二十五日)にあわせ「母校を訪ねる会」を実施しています。今年度は、昭和四十、五十、六十、平成七十七年三月の卒業生が該当します。該当される卒業年次の

会員の皆さん、ご出席をお待ちしております。



工学部・母校を訪ねる会より(卒業後30年)

生産工学部土木工学科

主任 伊藤義也



① 主任挨拶
日大土木会の皆さん、平成二十六年四月から主任を仰せつかりました伊藤でございます。日大土木会におかれましては学生の教育ならびに教室に対して多大なご支援、ご指導並びにご援助をいただいております。心より御礼申し上げます。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



生産工学部土木工学科のホームページ

② 学科の話題

○平成二十六年卒業生
 平成二十六年年度の学部学生並びに大学院生の就職状況は日大土木会の会員の並びに諸先輩のご協力およびご支援もちまして、学部学生二百九名、修士十名、博士一名の卒業生全員が就職でき、本年度も一〇〇%の就職率を確保することができました。学部学生の就職の内訳は、建設業一〇名、コンサルタント二七名、公務員三〇名、製造・小売・自営業三三名、進学九名であります。

また、平成二十七年年度は二一六名の新入生を迎え、四月九日より、授業が行われております。

教室人事では大木宜章教授（環境工学）、高崎英邦特任教授（施工計画）、三田地利之特任教授（地盤工学）、工藤勝輝教授（測量・リモート・センシング）、が昨年度末をもって退任されました。先生方には非常勤講師として引き続き教育に当たられます。

③ 学科の近況報告

また、新任の先生を平成二十六年十月に（財）リモート・センシング技術センター研究部から杉村俊郎教授、平成二十七年四月に国土交通省から森田弘昭教授ならびに

清水建設技術センターから西尾伸也教授をお迎えしております。

杉村俊郎教授は、測量学・リモート・センシング等、森田弘昭教授は、環境分野の研究・教育、西尾伸也教授は地盤工学等、それぞれ、実務経験を踏まえた実践的な分野をご担当していただいております。

一方、水口和彦助教が准教授に昇格、青山定敬助教、朝香智仁助教、加納陽輔助教がそれぞれ専任講師に昇格、山口晋助手が助教に昇格しました。引き続き学生の目線にたつた学生指導と研究面での活躍を期待しております。つきましては、引き続き皆様のご指導・鞭撻をいただきたく宜しくお願い申し上げます。

カリキュラムではひきつづき、平成二十五年より体系化を進めている「技術者としての将来を築く」に「技術者教育」の具現化を目的にカリキュラム全体を見渡して、土木技術者の仕事、立場、役割理解に基づく将来像構築などを萌芽させるためのキャリアデザイン教育と土木技術者に必要とされる工学的理解、理論的思考に基づく、問題発

見・解決力の養成などを萌芽させるためのエンジニアリングデザイン教育の進めております。

「日大土木会奨励賞」を受賞して

理工学部土木工学科では、大学院生の修士論文優秀発表者を対象に、「日大土木会奨励賞」として教育補助費の一部を利用させていただきます。平成二十七年度も十五名の修士課程修了生のうち四名を表彰い



学位記伝達式で表彰された青木一繁さん

ました。表彰者には賞状の他に副賞として図書カードが贈られました。受賞者を代表して青木一繁さん（現原子力規制庁に勤務）にコメントをいただきましたので、この場を借りて紹介いたします。

「日大土木会奨励賞」を受賞して
 大学院理工学研究科
 土木工学専攻
 青木一繁

大きな困難が私を待っていた。そんな中で、就職活動では日本大学の先生方や卒業生の方々から御指導や御助言を頂き、自身の道を見失うことなく就職先を決めることができました。

研究では安田陽一教授の御指導の下、土木学会や学内の学術研究発表などを通して、研究内容を深めることができ、日大土木奨励賞を受賞することができました。

私の大学院生活は日本大学の関係者の支えがあったからこそ成長でき、感謝の思いでいっぱいです。今後は、この感謝の気持ちを悩んでいる日本大学の学生達の支えとなる形で、恩返ししていきたいと考えています。

皆様方からの会費納入により、本会の諸活動（特別講演会・学科への教育補助費贈呈等）が実施されております。引き続き、年会費（三千元）納入のご協力、よろしく願い申し上げます。（事務局より）

平成二十七年春の叙勲で、本会副会長の鈴木宏氏（元東京都下水道局長・昭和四十三年理工・土木卒）が瑞宝小綬章を受章されました。

おめでとうございます。おめでとうございます。

おこやみ
 平成二十六年〜二十七年に



会費納入のお願い

- 大澤厚彦 平成元年卒 (理工・土木)
- 海保剛 昭和四十三年卒 (理工・土木)
- 清水弘司 昭和四十七年卒 (理工・土木)
- 山本雄二 昭和四十三年卒 (理工・交通)
- 以上四名 (五十音順)